

第4学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「ローマ字の書き方」 教材名「ローマ字の書き方」

2 単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、本時に扱う表記のきまりを確かめ、語や文章を書く際に使う。思考・判断・表現では、日本語の語をローマ字で書き、見本と比べて音と文字の対応を直す。交流や試行の前後を比べ、ローマ字の確認カードを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①本時に扱う表記のきまりを確かめ、語や文章を書く際に使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）	①「書くこと」において、学習カードの語句や説明を読み直し、表記や言い方を確かめて直している。（B(1)エ）	①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

この単元では、ローマ字の読み書きを中心に学ぶ。日本語の語をローマ字で書き、見本と比べて音と文字の対応を直す活動を組むことで、言葉について知ることと、目的に合わせて使うことを結び付ける。指導要領の〔知識及び技能〕(1)ウとB(1)エに関係する学習である。公式単元一覧では知識事項が中心であるが、本案では言葉を使って見直す活動に関わるB(1)エを関連事項として加えた。成果は、ローマ字の確認カードに示した判断と理由から捉える。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

予想される難しさは、仮名の文字数とローマ字の字数を同じにすることである。音ごとに区切って母音と子音を確かめる。初めの答えを消さずに残し、学習後に何を変えたか、なぜ残したかを比較できるようにする。児童の反応は予想である。実在の学級の姿を示すものではない。読む速さや記述量の差を、そのまま国語の力の差として扱わない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本 時）	○日本語の語をローマ字で書き、見本と比べて音と文字の対応を直す。 ○音のまとまりはどの文字の組合せになるかを考え、最初の答えとその理由を残す。	知①・思①（発言・学習記録）
第2次	2	○友達の説明と比べ、ローマ字の確認カードを見直す。 ○別の語句や場面でも今回の考え方を使い、直した理由を伝える。	思①・態①（見直しの記録）



6 本時の指導 (1/2)

(1) 本時の目標

日本語の語をローマ字で書き、見本と比べて音と文字の対応を直すとともに、カードに書いた語句や説明を読み直して修正できる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 身近な経験と既習の言葉を確認、今日使う教材や資料を準備する。 ○「音のまとまりはどの文字の組合せになるか」 【めあて】ローマ字の読み書きについて、自分の考えと理由を表そう。 〈予想される児童の反応〉 ・仮名一文字でも複数のアルファベットになる。 ・どこを確かめれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。	本時に使う具体例が見える所へ置く。仮名の文字数とローマ字の字数を同じにする姿が見られても、すぐに訂正させず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。
展開 (分)	2 日本語の語をローマ字で書き、見本と比べて音と文字の対応を直す。 3 書いたものを読み返し、「音のまとまりはどの文字の組合せになるか」を観点に、友達へ伝わりにくい箇所を確かめる。 4 必要な語句や構成を直し、直す前後と理由を残す。 ○学習した語や説明をカードに書き、見本や資料と照らして表記・言い方を見直す。 〈予想される児童の反応〉 ・仮名一文字でも複数のアルファベットになる。 ・友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。	音ごとに区切って母音と子音を確認める。知識・技能では、本時に扱う表記のきまりを確認め、語や文章を書く際に使っている。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。 ◎①学習カードの語句や説明を読み直し、表記や言い方を確かめて直している。(B(1)工) (学習カードの修正前後)
まとめ (分)	5 ローマ字の確認カードを確認、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。 【まとめ】表記は音だけで決めず、文字の見本や文の中の動きを確かめて使う。 6 最初から変えた点、理由を確かめて残した点を振り返る。 〈予想される児童の反応〉 ・自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。	結論が教師の例と同じかだけで判定しない。音のまとまりはどの文字の組合せになるかへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。 ◎知① (ローマ字の確認カードと実際の言葉の使用) ・ 態① (単元を通した試行や見直し)

(3) 本時の評価

おおむね満足できる状況は、日本語の語をローマ字で書き、見本と比べて音と文字の対応を直している姿である。初稿・見直した稿・修正理由を基に判断する。仮名の文字数とローマ字の字数を同じにする場合は、音ごとに区切って母音と子音を確かめる。読み書きの速さや発表の回数ではなく、本時の目標に関わる言葉の使い方と判断を捉える。関連する書くことの評価では、学習カードを読み直して訂正した箇所と、その理由を確認する。

(4) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央にはローマ字の読み書きを確かめる語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側にローマ字の確認カードで残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後を使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ



AI三重